

水道事業

施設などをつくるための収入と支出

借金	2億円	5 億円
工事負担金	2億円	
その他	1億円	

水道管等をつくる費用	30億円	42 億円
借金の返済	12億円	

◆37億円の不足分は減価償却費等で補います。

水道水をお届けするための収入と支出

本業による収入 (水道料金等)	63億円	74 億円
本業以外の収入 (長期前受金戻入※等)	11億円	

本業による支出 (水道水をつくる費用)	55億円	59 億円
(減価償却費※)	28億円	
27億円		
本業以外の支出	4億円	

黒字 15億円

本業でのもうけ (営業利益) 8億円



藤尾地区分水解消事業 (稲葉台配水池)

● 1年間で売った水の量 (年間有収水量)

3,900万^m (前年比0.3%減)

一般家庭用や工場用、商業用、公用等すべての用途で前年を下回り、前年度よりわずかに減少しました。

● 1年間の水道料金収入

62億1,800万円 (前年比16.0%増)

料金改定により、増加しました。

普及率
99.97%

普及率
98.4%

普及率
70.2%

平成29年度

決算状況

※減価償却費って何？

施設や設備は、時間の経過とともにその価値が減少していきます。この価値の減少分を「減価償却費」として費用に計上します。

なお、現金の支出はないため、この分は現金として残ります。この現金は「施設をつくるため (資本的収支)」の費用の財源にあてられます。

※長期前受金戻入って何？

施設や設備などの減価償却する資産の取得に対して交付された国からの補助金などは「長期前受金」として、減価償却にあわせて収益として計上します。これを「長期前受金戻入」と言い、公営企業独特の会計手法です。

なお、現金の収入はありません。

下水道事業

施設などをつくるための収入と支出

借金	1億円	6 億円
一般会計からの繰入金等	2億円	
国からの補助金	3億円	

下水道管等をつくる費用	16億円	58 億円
借金の返済	42億円	

◆52億円の不足分は減価償却費等で補います。

下水を処理するための収入と支出

本業による収入 (下水道使用料等)	75億円	102 億円
本業以外の収入 (一般会計からの繰入金等)	27億円	
(長期前受金戻入※)	6億円	
21億円		

本業による支出 (下水を処理する費用)	81億円	92 億円
(減価償却費※)	33億円	
48億円		
本業以外の支出	11億円	

黒字 10億円

本業での損失 (営業損失) 6億円



汚水管渠整備事業 (北比良地区)

● 1年間できれいにした下水の量 (年間有収水量※)

3,700万^m (前年比0.2%減)

前年よりわずかに有収水量は減少しました。

※有収水量とは…処理場できれいにした下水のうち、地下水や雨水など、使用料を支払う対象とならない分を除いた水量です。

● 1年間の下水道使用料収入

69億2,700万円 (前年比0.4%減)

わずかに有収水量が減少したため、下水道使用料収入も減少しました。

ガス事業

施設などをつくるための収入と支出

その他収入※	0億円	0 億円
※約1千万円の施設をつくるための収入は表示単位の関係上、記載を省略しています。		

ガス管等をつくる費用	15億円	15 億円
借金の返済	0億円	

◆約15億円の不足分は減価償却費等で補います。

ガスをお届けするための収入と支出

本業による収入 (ガス料金等)	124億円	126 億円
本業以外の収入	2億円	

本業による支出 (ガスの購入費用)	117億円	118 億円
(ガスを送るための費用)	77億円	
30億円		
(減価償却費※)	10億円	
本業以外の支出	1億円	

黒字 8億円

本業でのもうけ (営業利益) 7億円



ガス導管拡張整備事業 (小野地区)

● 1年間で売ったガスの量 (年間販売量)

1億6,800万^m (前年比0.6%減)

家庭用の販売量は増加となったものの、工業用の減少など、全体での販売量はわずかに減少しました。

● 1年間のガス売上

120億4,400万円 (前年比9.2%増)

原料価格が高く推移したことにより、ガス料金単価が上昇したため、ガス売上は前年より増加しました。